

# レファレンス だより

2013年9月号  
No. 130

福岡市総合図書館  
図書サービス課 相談係  
☎092-852-0632



図書館では、情報を求める利用者に対して、図書館の資料と機能を活用して調査のお手伝いをする「レファレンス・サービス」を提供しています。「レファレンスだより」は、実際に寄せられた質問について、総合図書館が回答した事例の一部を紹介する情報紙です。(法律相談や物品鑑定などお答えできない質問もあります。)

## ■レファレンス受付件数 (2013年6月分)

参考	人文	社会	自然	郷土
175	1605	339	444	383
国際	国連	こども	ホピュラー	合計
373	70	1014	1343	5746

(開館日 26日 一日平均 221件)

※「2階C1」などと表記しているものは総合図書館の棚番号です。また、「813.1」などと表記しているものは分類番号で、数字の左にRが付いている資料、郷土資料は貸出ができませんので、館内でご利用ください。本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



## 今月のレファレンス徹底解説!

Q: 菊芋 (キクイモ) について知りたい。

### ■事典・図鑑

『薬草カラー大事典』(伊沢 一男/著 主婦の友社 1998年) 2階E2 R499.87/1

北米原産の多年草で、地下の塊茎(カイケイ)が果糖の製造原料として栽培される。太平洋戦争中は食糧不足を補うため各地で栽培され、大いに利用されたとある。別名カライモ、シシイモなど。英名はエルサレム・アーティチョーク。花のカラー写真あり。

\*「塊茎」とは地中であって不定形に肥大した地下茎。『図説植物用語事典』八坂書房より

『健康・栄養食品事典 2008改訂新版』(林 輝明・吉川 雅之/監修 東洋医学舎 2008年)

2階E2 R498.5/7

名前は菊のような花をつけ、根の先端が肥大してイモのような塊茎ができることに由来する。日本には江戸末期に渡来したが、消化吸収が悪く、栄養価も高くないため、食用よりも飼料として使われてきた。近年ではほとんど栽培されていなかったが、糖尿病を改善する作用があることが分かったことから、注目を集め健康機能性食材となったとある。

菊芋は炭水化物が15.1%と多く含まれているが、この糖質にはデンプンがほとんどなく、イヌリンという糖質で占められている。イヌリンは分解されてもブドウ糖ではなく果糖になるため、血糖値の上昇とは無縁であるばかりか、腸が糖質を吸収するのを抑える作用があるとある。

『花図鑑野菜』(芦沢 正和・内田 正宏/監修 草土出版 1996年) 2階E4 R626.03/h

食べ方と効能、食品成分について記載がある。旬は秋。塊茎のカラー写真あり。

### ■食品・栄養学関連

『薬膳素材辞典』(辰巳 洋/主編 源草社 2006年) 2階E10 498.58/7

調理方法や中医学的な働き、栄養成分、食材に関するエピソードが分かる。主成分であるイヌリンはノンカロリーの糖質で、腸内の善玉菌の餌となり、インシュリンの分泌を抑える働きがあるため、糖尿病の食事療法やダイエットに使われているとある。



## その他にもこんな質問がありました

Q：神籠石（コウゴイシ）について知りたい。

### ■辞典

『国史大辞典 5 け-こほ』（国史大辞典編集委員会／編 吉川弘文館 1985年）2階 C10 R210.03/コ  
「神籠石」とは、古代山城の遺跡のこと。現在確認されているものとしては、福岡県に6カ所、佐賀県に2カ所、山口県に1カ所ある。この種の山城の特色は、200メートルないし400メートルぐらいの山丘を利用し、その8合目ぐらいに大きい切石を密接並列させて、山を囲んでいることである。写真の収録もあり、福岡県の高良山（こうらさん）・女山（おんなやま）・御所ヶ谷・杷木・鹿毛馬（かのうま）、佐賀県の帯隈山（おぶくまやま）・おつぼ山、山口県の石城山（いわきさん）の「神籠石」が紹介されている。福岡県には雷山にも「神籠石」があるが、写真の紹介はない。

### ■歴史関連

『季刊 邪馬台国 2011年1月号』（梓書院）2階 K37 K37

「神籠石」という名称は高良山だけでみられるものである。例えば雷山は「筒城（つつき）」、鹿毛馬は「牧の石」、石城山は「山姥の穴」など様々な名称がつけられていたが、「神籠石」が古代山城の遺跡名称として定着したため「神籠石論争」と呼ばれる名称問題論争にまで発展した、とある。

『史跡で読む日本の歴史 3 古代国家の形成』（吉川弘文館 2010年）2階 B10 210.1/シ

古代山城跡一覧に9か所の神籠石の収録あり。所在地や全周、遺構（水門跡や列石跡など）がわかる。

『古田武彦・歴史への探究 1』（古田 武彦／著 ミネルヴァ書房 2013年）2階 B9 201/フ

「神籠石配布図」「疑似神籠石配布図」の収録あり。※福岡県には国史大辞典で紹介されている6か所の他、唐原が「神籠石配布図」に含まれている。

### ■史跡関係

福岡県の「鹿毛馬」「御所ヶ谷」「高良山」「杷木」「女山」、佐賀県の「帯隈山」「おつぼ山」の「神籠石」に関する調査報告書や資料もあります。詳しくは、RC1カウンターでお尋ねください。

Q：加速器について知りたい。また、国際リニアコライダー誘致に関する資料はないか。

### ■百科事典

『世界大百科事典 5 2009年改訂新版 カウ-カヘチ』（平凡社 2009年）2階 C1 R031/セ

加速器とは、荷電粒子を電磁場による力で加速し、その運動エネルギーを大きくする装置とある。

### ■原子物理学・電子工学関連

『加速器がわかる本 小さな素粒子を“見る”巨大な装置』（ニュートプレス 2007年）1階ポ61 549.98/カ  
世界と日本の加速器のほか、国際リニアコライダー計画について記述あり。

『神の素粒子：宇宙創成の謎に迫る究極の加速器』

（ポール・ハルパーン／著 小林 富雄／日本語版監修 日経フュエル・マガジン社 2010年）1階ポ65 429.2/ハ  
神の素粒子と呼ばれるヒッグス粒子の発見を目的とした、加速器「大型ハドロンコライダー」について書かれている。

### ■雑誌

『FFG調査月報』2013年6月号（FFGビジネスコンサルティング）2階 M13

「国際リニアコライダー（ILC）を九州に！」という記事あり。ILC 国内候補地として、日本では北上地域と脊振地域が挙げられている。ILC が地域にもたらす効果についても記述あり。

『九州経済調査月報』2013年4月号（九州経済調査協会）2階 K36

九州大学の高田仁氏による「講演録 国際リニアコライダーは地域をどう変えるか」のほか、「国際リニアコライダーの誘致効果」には、九州において建設時8年間で3400億円、運用時1年ごとに最大490億円の経済効果が見込まれるとある。

■インターネット

ILC PROJECT 国際リニアコライダー計画【<http://aaa-sentan.org/ILC/>】

ILC (International Linear Collider) 計画とその目的、加速器について解説されている。

ILC アジア 九州推進会議【<http://www.ilc-asia-kyushu.org/>】

ILC を九州に誘致する活動に関するサイト。資料として、サイエンスフロンティア九州構想のパンフレットや報告書を見ることができる。

福岡県立図書館【<http://www.lib.pref.fukuoka.jp/>】 > 「国際リニアコライダー」関連リンク&資料紹介  
ILC について解説したサイトのリンクや、関連図書・雑誌を紹介している。

Q：絶滅危惧種であるシマフクロウの生態と日本における保護活動について。

■百科事典

『絶滅危惧動物百科 9 バンデューラバルブス-ポリネシアマイマイ類』

(自然環境研究センター／監訳 朝倉書店 2008年) 2階 E2 R480.38/㉙

シマフクロウは、フクロウ類では世界最大の種で、全長は60～72cm、翼開長は1.8m～1.9mになる。アジア北東部の、冬の寒さの厳しい地域に生息しており、日本では北海道に分布している。世界の個体数は約400～1800羽で北海道に120羽と推定されると書かれている。

■インターネット

環境省 種の保存法の解説【<http://www.env.go.jp/nature/yasei/hozonho/>】

国内外の絶滅のおそれのある野生生物を保護するために、平成5年4月に施行された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」についての解説があり、保護増殖事業計画を策定している種の中にシマフクロウも含まれている。シマフクロウ保護増殖事業計画はPDFで確認できる。

北海道庁【<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>】

>環境生活部>環境局生物多様性保全課 >第11次鳥獣保護事業計画の策定について

平成24年4月1日から平成29年3月31日までを計画期間とする「第11次北海道鳥獣保護事業計画」を確認できる。

Q：国連安全保障理事会において、拒否権行使により日本が国連加盟を拒否された時の会議録はあるか。

拒否権=veto, negative vote of permanent members

拒否権を行使できるのは、常任理事国5カ国(中国、フランス、ソ連(ロシア)、英国、米国)で、国連安全保障理事会の決議案は上記5常任理事国の内1カ国でも拒否権を行使すると否決される。

■所蔵資料

1946年～2004年の拒否権発動のリストあり。

『Report of the Open-ended Working Group on the Question of Equitable Representation on and Increase in the Membership of the Security Council and Other Matters related to the Security Council GAOR 58<sup>th</sup> session, Supplement No. 47(公式記録)』

(United Nations 2004年) 2階国連A8 GA/58・Suppl.47

上記資料より、1952年9月18日に第602回会合で日本の国連加盟について審議。日本の加盟(ドキュメントS/2673)に対する採決結果は会議速記録(verbatim records)で確認することができる(ドキュメント記号S/PV.-)。

■インターネット

UNBISnet : United Nations Bibliographic Information System (国連書誌情報システム)

【<http://unbisnet.un.org/>】 >Bibliographic Records の New Browse List Search >Search のところに S/PV. 602 を入力 (一覧から英語その他の国連公用語でよむことができる)

審議過程およびソ連が反対票を投じ、否決されたことがわかる。

※ 棚番号は総合図書館のもので、本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



## 今の一冊！

### 『富士山を知る事典』

(渡邊 定元／編 佐野 充／編 日外アソシエーツ 2012年) 2階 C12 R291.51/7

先月のレファレンスだよりも、富士山が世界文化遺産に登録された話題を取り上げましたが、今回紹介するのは、丸ごと1冊富士山を解説した事典です。

富士山がテーマといっても、切り口は様々。地形やそこに生きる動植物などの自然面から、文学や芸術に表現された富士山、観光や地域づくりに生かす取り組みなど、多くの要素が盛り込まれ、文化遺産として認められた富士山のすそ野の広さに、あらためて気づかされます。

**使ってみました！**⇒ “〇〇富士” について調べる！

富士山に形が似ていることから“〇〇富士”と名の付く山が各地にあり、それらを「見立て富士」あるいは「ふるさと富士」と呼んでいます。日本人が富士山を偲んで名付けた「ふるさと富士」は国外にも及び、アメリカの“オレゴン富士”(正式名称：マウント・フッド)やフィリピンの“ルソン富士”(同：マヨン山)などがあります。

◇全国の代表的な「ふるさと富士」を集めた「ふるさと富士いろはカルタ」から、福岡県の山はこれ！

㊦ 玄海の シンボル可也は 糸島富士



## 図書館活用術 ～「レファレンス協同データベース」について～

レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースです。全国の図書館で寄せられた質問と回答の記録や、特定のテーマに関する情報源の案内が登録されています。

知りたいことがあるけどどうやって調べたらいいかわからないとき、このデータベースで検索すると、図書や雑誌だけでなくインターネット情報も含めて、調べ方の手がかりが得られることがあります。私たち図書館員も日々のレファレンスの参考に使っていますが、インターネット上で誰でも利用できるデータベースです。

総合図書館でも、今年度から事例の登録を行っていますので、皆さんがカウンターでお尋ねになった質問がこのデータベースに登録され、知らない誰かの役に立つかもしれません。(※個人を特定できるような内容は登録されません)

【<http://crd.ndl.go.jp/reference/>】 国立国会図書館>レファレンス協同データベース事業



## 九州国連寄託図書館 福岡市に移管され 25 周年！！ (1988-2013)

United Nations



Depository Library

九州国連寄託図書館は、日本国際連合協会福岡県本部より、福岡市にその全資料が移管され、1988年10月に福岡市民図書館に開設されました。その後、福岡市総合図書館2階に継承され、国際連合(国連)の活動についての情報や、国連の刊行する資料を公開・提供しています。

1993年に創刊した『クンドルニュース』は今月で76号です。総合図書館で配布の他、総合図書館ホームページでもご覧いただけます。九州国連寄託図書館では皆様のご利用をお待ちしております。

【<http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>】 福岡市総合図書館>九州国連寄託図書館>クンドルニュース